

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課： 国道・防災課
担当課長名： 鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道370号 阪井バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	和歌山県
起終点	自：和歌山県海南市重根 至：和歌山県海南市木津	延長	2.6 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道370号は、和歌山県海南市を起点とし、奈良県山辺郡都祁村に至る延長約134kmの幹線道路である。</p> <p>阪井バイパスは、交通混雑及び幅員狭小区間の解消を目的とした、延長約2.6kmの4車線道路である。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>当該区間の現道は、交通量20,000台/日、混雑度2.0を超過しており、朝夕のピーク時をはじめ恒常的に渋滞が発生している。また、現道沿いには家屋が密集しており、幅員も狭小で大型車同士のすれ違いが困難な区間があり、自転車歩行者の安全が確保されていない状況である。</p> <p>阪井バイパスは、家屋密集地を避けたバイパス計画により、交通混雑、幅員狭小区間を解消し、安全で円滑な交通の確保、自転車歩行者の安全性の向上を目的とした4車線道路であり、整備により地域の活性化、沿線市町村の交流促進、連携強化に大きく寄与するものである。</p> <p>全体事業費： 83 億円 計画交通量： 17,200～23,200 台/日</p> <p>事業概要図</p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	5.1	総費用： 61億円 （事業費： 59億円 維持管理費： 2億円）	総便益： 311億円 （走行時間短縮便益： 345億円 走行費用減少便益： -19億円 交通事故減少便益： -14億円）	基準年： 平成16年
	事業の影響				
事業の影響	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	根拠 現道における混雑度2.18を解消する。 【渋滞損失時間の改善】29.7万人時間/年 0万人時間/年 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】3.6万人時間/年・km 0万人時間/年・km 【渋滞度曲線】145位/540区間 540位/540区間	
	事故対策	-	注目すべき影響はない		
	歩行空間		現在歩道がない区間に歩道及び自転車歩行者道が設置される。（通学路であり、歩行者交通量38人/日、自転車交通量169台/日である区間に歩道等が設置される。）		
	住民生活		高次医療施設へのアクセス向上（三次医療施設-県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターへの時間短縮に寄与する道路である。）（20分 4分：約16分短縮）		
	地域経済		沿道まちづくりとの連携（重根地区土地区画整理事業と連携し地域経済の発展に寄与する。）		
	災害		緊急輸送道路を形成（緊急輸送道路ネットワーク計画（第2次）に位置づけあり。）		
	環境		CO2排出量の削減（削減量：1,352t/年）		
地域社会		主要な観光地へのアクセス向上（主要な観光地である高野山〔年間観光入込客数=110万人〕へのアクセスは、現状で幅員狭小であり、その解消により安全な観光輸送が図られる。）			
事業実施環境	-	注目すべき影響はない			

関係する地方公共団体等の意見
海南市長及び国道370号海南美里間改修促進協議会より、国道370号の早期整備の要望を受けている。（平成16年11月29日）

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
円滑な事業執行の環境が整っている。

採択の理由

現道交通量20,000台/日、混雑度2.0を超過し、朝夕のピーク時をはじめ恒常的に発生している渋滞区間の解消、家屋が密集区間における幅員狭小で大型車同士のすれ違い困難区間の解消、自転車歩行者の安全確保が図られるとともに、高次医療施設へのアクセス向上等効果が大きい。また、便益が費用を上回っており、平成16年12月には都市計画決定（変更）されるなど円滑な事業執行の環境が整っており、整備により、地域の活性化、沿線市町村の交流促進、連携強化に大きく寄与するものである。
以上により、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。